



南労会
支部報告

介護報酬大幅ひきさげ
介護保険制度大改悪に立ちむかうゾ!

賃金の最大の原因が

介護報酬なのに!

マスコミでも大きく報じられたが、この四月から介護報酬が大幅に引き下げられた。

介護報酬とは、国が決める介護サービスに対する公定価格。介護保険制度が始まって以来、低く抑えられてきた。小さな介護事業所にとって、介護報酬は唯一最大の賃金原資と言っても過言ではない。これが更に下げられたのだ。

大げさではなく介護事業所と介護労働者は存亡の危機に立たされた。

超低報酬 その一例

例えば大阪市の場合では、家事援助は四十六分以上はどれだけ働いても二六〇八円、これが四月以降二五〇二円に。この金額には移動や記録に費やす時間の賃金、保険請求や必要不可欠な事務一般の経費も含む。

経験者ならわかると思うが家事援助だからラク

で簡単というものではない。介護が必要な人の家事を四十六分で終わらせることは大半の場合、できない。要するにただ働きを前提に決めているのだ。介護労働者をなめんなよ!と怒りがフツフツとわいてくる。

ひとケタ以上も違う!

ちなみに保険医療に支払われる診療報酬と比べてみよう。ある利用者さんは月二回往診を受けているがその診療報酬は一

回あたり約三万五千元。たとえ三分間診療でも報酬額は変わらない。

介護破壊が待ってる!

政府統計によっても介護労働者の賃金は全産業の平均賃金より月額十万円も低い。人手不足、介護の質の低下は深刻だ。その上にのしかかる介護報酬大幅引下げが何をもたらすのか?!

今回の引き下げで特に狙われたのは小さな事業

所—十%近い切下げ。そして特別養護老人ホーム—金持ちでなくても何とか手が届きそうな「終の棲家」は六%前後の切下げだ。この先に待ち受けるのは事業所の閉鎖や倒産、解雇、際限ない長時間のただ働き、処遇改悪と虐待の連鎖、利用者切捨てや施設からの追い出し等介護破壊の現実だ。

処遇改善は大ウソ!

国はこんな切下げを強行しておきながら一五万千円の賃上げが約束されているかのような大ウソの宣伝をやっている。

高い処遇改善加算金を取るのは一定規模の経

営基盤があり有資格者の確保やその他もろもろの条件をクリアできる一握りの事業所だけ。

しかも加算金は労働者一人につき月額いくらかという形で支給されない。実際に提供した介護の種類と時間に応じて決められた報酬額の数パーセント(多くの事業所は一%〜五%弱)が加算金として支給される仕組みだ。

事業所も労働者も利用者も家族も限界!

介護に関わる当事者に広く呼びかけ五月二十一日大学習集会をやります
↓国と闘かわないと介護は守れない。ぜひ参加を!

5/22

介護事業所も 職員も 利用者・家族も

これではやっていけない!

介護保険重要学習会

講師 日下部雅喜さん

日時 5月22日(金) 午後6時半～8時半
場所 エルおおさか 709号
地下鉄天満橋駅から徒歩7分

- ★ 大阪府や市の説明会ではわからないことがバツチリわかる!
- ★ 事業所閉鎖や倒産、解雇や処遇改悪をふせぐための提案あります。

資料代のみ
500円

☆日下部雅喜(くさかへまさき)さん紹介☆

「介護保険のことならこの人!」と定評。制度発足から15年、一貫して現場で高齢者とともに問題点の改善に取りくむ。

福祉介護オンズネットおおさか事務局長
介護保険料に怒る一揆の会事務局長
介護保険料一揆に連帯する木っ端役人の会代表
大阪社会保障推進協議会介護保険対策委員

著書
「介護保険は詐欺である」
「改定介護保険法と自治体の役割」
「2015改正介護保険 要支援外し新総合事業に立ち向かう」など。

呼びかけ

◇安心できる介護を! 懇談会(津)◇
◇労働運動の再生をめざす懇談会◇
[連絡先] 6583-4880 NPOみなと(大野・川口)

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう!